

令和元年度

伊東市教育委員会
自己点検・評価報告書

令和2年12月

伊東市教育委員会

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、令和元年度の伊東市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を報告するものである。

令和2年12月

伊東市教育委員会教育長 高橋 雄幸

目 次

1 趣旨	1
2 点検・評価の対象	1
3 教育委員会の活動	2
4 教育委員会が管理・執行する事務	2
5 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	3
6 伊東市教育委員会の自己点検・評価シート	4
7 学識経験者による意見	17

伊東市教育委員会の自己点検・評価について

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、令和元年度における伊東市教育委員会（以下「教育委員会」といいます。）の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することにより教育委員会の責任体制の明確化及び体制の充実・強化を図り、効果的な教育行政を推進します。

なお、点検及び評価を行う際には、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

伊東市では、第四次伊東市総合計画で「ずっと住みたい また来たい 健康保養都市 いたとう」という将来像を掲げています。教育委員会教育部では、その将来像の実現のために第十次基本計画において政策目標を「心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち」とし、その施策を「教育環境の整備」、「教育の充実（保育園）」、「教育の充実（幼稚園）」、「教育の充実（小・中学校）」、「生涯学習活動の推進」、「市民スポーツ活動の支援」、「歴史・芸術文化の振興」及び「青少年の健全な育成」の8項目としています。この8項目に「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」を加えた10項目に属する事業について点検・評価を行いました。

3 教育委員会の活動

本市の教育委員会は地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育長と4人の教育委員による合議体の組織として構成され、毎月の定例会開催のほか、必要に応じて臨時会を開催しています。

教育委員会は、合議により所管である学校やその他の教育機関の管理、学校教育施設に関する全般的な事務並びに社会教育、社会体育、学術及び文化に関する事務の管理、執行等について、本市の実情に即した教育行政を推進しています。

これらの教育事務を処理する教育委員会事務局は教育長の指揮監督の下に組織構成され、それぞれの事務を分掌しています。

4 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会が管理・執行する事務は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条に定められていますが、伊東市教育委員会教育長に対する事務委任規則（昭和43年伊東市教育委員会規則第1号）の規定により教育長に委任されているものを除き、次の事務の執行を行うこととなっています。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
- (2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- (3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- (4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (5) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定する点検及び評価に関すること。
- (6) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条及び第29条に規定する意見の申出に関すること。
- (7) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。
- (8) 社会教育関係委員・団体等の委員の委嘱に関すること。
- (9) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域の設定及び変更に関すること。

5 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務は、伊東市教育委員会教育長に対する事務委任規則の規定により教育長に委任されたものについて、伊東市第十次基本計画で教育委員会教育部各課が定めた方策を実現するための事業を推進しました。

- (1) 学校施設の環境整備（1事業）
- (2) 給食センターを活用した食育・地産地消の推進（3事業）
- (3) ICT教育環境整備の充実（3事業）
- (4) 少子化や地域の特性に対応した活力ある学校づくりの検討（1事業）
- (5) 多様な保育事業の実施（1事業）
- (6) 地域における子育て支援拠点施設の整備（1事業）
- (7) 待機児童解消に向けた取組の実施（1事業）
- (8) 障がい児童等への支援（1事業）
- (9) 認定こども園（幼保一体化施設）の整備（1事業）
- (10) 食育の推進（1事業）
- (11) 幼稚園教育の充実（2事業）
- (12) 保護者とともに子どもの育ちを支える支援の推進（2事業）
- (13) 集団保育を実施するための環境整備（1事業）
- (14) 子育てニーズに応じた幼保連携の推進（2事業）
- (15) 園・学校の基盤づくり（4事業）
- (16) 「学びを楽しむ力」の育成（3事業）
- (17) 「人として備えたい力」の育成（5事業）
- (18) 「命を守る力」の育成（4事業）
- (19) 教育的支援体制の充実（1事業）
- (20) 生涯学習機会の提供（3事業）
- (21) 市民の自発的生涯学習活動の推進（4事業）
- (22) 図書館機能の充実（2事業）
- (23) スポーツ指導者の養成（3事業）
- (24) 歴史、芸術文化に触れる機会の創出（2事業）
- (25) 歴史文化情報の発信（1事業）
- (26) 芸術文化活動の支援（1事業）
- (27) 声かけ・あいさつ運動の推進（1事業）
- (28) 地区青少年健全育成活動の活発化（1事業）

令和元年度 伊東市教育委員会の自己点検・評価シート

【評価基準】

- A: 目標を十分達成し、期待される成果が得られた(80%~100%)
- B: 目標をおおむね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた(60%~80%)
- C: 目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた(50%~60%)
- D: 目標をあまり達成できず、成果が少なかった(30%~50%)
- E: 目標をほとんど達成できず、成果がなかった(30%未満)

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育委員会の活動	1	教育委員会会議の運営及び運営改善	A	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 ・予定した定例会(12回)全てを開催し、案件76件(議決事項24件・報告事項30件・その他事項22件)を審議した。 ・認定こども園への視察を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった。 ・定例会開催前の資料配布を求め、議事内容の理解を深めた上で会議に臨んだ。
					<ul style="list-style-type: none"> 改善の視点 ・議案の円滑かつ正確な審議に努めるとともに、必要最低限かつ専門用語を排した分かりやすい資料の提供を事務局に求める。
		2	教育委員会の会議の公開、市民への情報発信	A	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 ・定例会の公開を基本としたが、傍聴は0人だった。 ・会議録を速やかに市ホームページに掲載し、会議内容の公開に努めた。
					<ul style="list-style-type: none"> 改善の視点 ・定例会の開催日時や会議録を、告示板への掲示や市ホームページへの掲載により遅滞なく周知する。
		3	教育委員会と市長及び市長部局との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 ・総合教育会議を開催し、伊東市立学校の適正規模及び配置について協議を行った。また、学期ごとに、市長と教育の条件整備等の施策等について意見交換を行った。
					<ul style="list-style-type: none"> 改善の視点 ・教育委員会側からも必要に応じて総合教育会議の開催を要請するとともに、継続して市長と意見交換を行うなど、更なる連携を深め本市教育行政の推進を図る。
		4	教育委員の自己研さん	A	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 ・教育委員の出席を要する会議や意見交換会に積極的に出席し、市内及び他市町の情報収集を行った。
					<ul style="list-style-type: none"> 改善の視点 ・引き続き、教育現場の実情を知るため、積極的に足を運び関係者との意見交換を行う。 ・研修効果を上げるため、研修内容を考慮し参加時期を決定する。

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点
A	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 ・予定した定例会(12回)全てを開催し、案件62件を審議した。 ・適用指導教室なぎさ・伊豆市立土肥小中一貫校を視察し、職員との意見交換を行った。 ・定例会開催前の資料配布を求め、議事内容の理解を深めた上で会議に臨んだ。
	<ul style="list-style-type: none"> 改善の視点 ・議案の円滑かつ正確な審議に努めるとともに、必要最低限かつ専門用語を排した分かりやすい資料の提供を事務局に求める。
A	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 ・定例会の公開を基本とし、3人の傍聴があった。 ・会議録を速やかに市ホームページに掲載し、会議内容の公開に努めた。
	<ul style="list-style-type: none"> 改善の視点 ・定例会の開催日時や会議録を、告示板への掲示や市ホームページへの掲載により遅滞なく周知する。
A	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 ・総合教育会議を開催し、伊東市立学校の適正規模及び配置について協議を行った。また、学期ごとに、市長と教育の条件整備等の施策等について意見交換を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 改善の視点 ・教育委員会側からも必要に応じて総合教育会議の開催を要請するとともに、継続して市長と意見交換を行うなど、更なる連携を深め本市教育行政の推進を図る。
A	<ul style="list-style-type: none"> 評価の視点 ・教育委員の出席を要する会議や意見交換会に積極的に出席し、市内及び他市町の情報収集を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 改善の視点 ・引き続き、教育現場の実情を知るため、積極的に足を運び関係者との意見交換を行う。 ・研修効果を上げるため、研修内容を考慮し参加時期を決定する。

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育委員会の活動	5	園、学校及び教育施設に対する支援並びに条件整備	A	評価の視点 ・教育委員それぞれが担当地区の学校等を訪問し、関係者と意見交換を行った。 ・訪問した際の状況や意見交換の内容を定例会で報告し、教育委員会内での共有を図った。
					改善の視点 ・学校教職員との円滑な意見交換を行うため、学校と調整を図った上で訪問するよう努める。 ・集約した意見は定例会で積極的に発言する。
	6	教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること	A	評価の視点 ・「伊東市の教育」の発行や、新年度の事業執行に当たり、教育行政の基本方針等の協議を行った。	
				改善の視点 ・日々の活動で得た教育現場の意見を方針に反映させる。	
	7	教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること	A	評価の視点 ・規則2本、規程1本、要綱2件を制定した。 ・規則2本、規程1本を改正した。 ・要綱1本を廃止した。	
				改善の視点 ・例規の迅速かつ的確な審議を心がける。	
	8	教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること	A	評価の視点 ・法的な審議事項とすべき案件はなかったが、総合教育会議において学校の適正規模及び配置を議題とし、市長と協議を行った。	
				改善の視点 ・常に保護者や園及び学校の現状の把握に努めるとともに、小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針案をまとめる。	
	9	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること	A	評価の視点 ・伊東市が抱える課題を解決できる教職員の配置を要望した。	
				改善の視点 ・教師の適性を把握しつつ本市の課題解決を図るための適正配置とともに、教職員の一層の服務規律の遵守を求める。	
10	地方教育行政組織及び運営に関する法律第26条に規定する教育委員会の管理及び執行の状況について点検及び評価に関すること。	A	評価の視点 ・PDCAサイクルを意識し、点検評価の実施時期を早め、次年度の事業内容に反映させた。		
			改善の視点 ・点検評価方法による改善の度合いを見極めながら、新たな修正点を探る。 ・自己評価を次年度の事業内容に反映させるため、作成時期の見直しを図る。		

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点
A	評価の視点 ・教育委員それぞれが担当地区の教育施設を訪問し、関係者と意見交換を行った。 ・訪問した際の状況や意見交換の内容を定例会で報告し、教育委員会内での共有を図った。
	改善の視点 ・学校教職員との円滑な意見交換を行うため、学校と調整を図った上で訪問するよう努める。 ・集約した意見は定例会で積極的に発言する。
A	評価の視点 ・「伊東市の教育」の発行や、新年度の事業執行に当たり、教育行政の基本方針等の協議を行った。
	改善の視点 ・日々の活動で得た教育現場の意見を方針に反映させる。
A	評価の視点 ・規則2本、要領1本を定めた。
	改善の視点 ・例規の迅速かつ的確な審議を心がける。
A	評価の視点 ・法的な審議事項とすべき案件はなかったが、総合教育会議において学校の適正規模及び配置を議題とし、市長と協議を行った。 ・市立学校適正規模及び配置検討委員会が作成した学校・園の適正規模及び配置に関する建議書を踏まえ、伊東市教育問題懇話会への諮問を行った。 ・伊東市教育問題懇話会から答申を受け取り、基本方針案をまとめていくこととした。
	改善の視点 ・常に保護者や園及び学校の現状の把握に努めるとともに、小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針案をまとめる。
A	評価の視点 ・伊東市が抱える課題を解決できる教職員の配置を要望した。
	改善の視点 ・教師の適性を把握しつつ本市の課題解決を図るための適正配置とともに、教職員の一層の服務規律の遵守を求める。
A	評価の視点 ・PDCAサイクルを意識した、より改善の見込まれる点検評価を行った。 ・点検評価を次年度の事業内容に反映させるため、点検評価の見直しを図ることとした。
	改善の視点 ・点検評価方法による改善の度合いを見極めながら、新たな修正点を探る。 ・自己評価を次年度の事業内容に反映させるため、作成時期の見直しを図る。

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点		
教育総務課	教育委員会が管理・執行する事務	11	地方教育行政組織及び運営に関する法律第29条(市長が教育に関する予算・事務について議会へ議決を求める際に教育委員の意見を聞くこと)に規定する意見の申出に関すること。	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算要求の内容報告を教育委員会事務局から受け、定例会の中で教育委員会の意見を明らかにした。 		
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合教育会議等も活用し、第29条に定める議案に対する意見を申し出る。 		
		12	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点化事業及び新規事業の予算要求について、定例会で審議を行った。 		
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決につながる事業・予算であるか、という視点に立った審議を心掛ける。 		
		13	公民館運営審議会委員兼社会教育委員、文化財保護審議会委員及び図書館協議会委員の委嘱に関すること。	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年4月定例会にて公民館運営審議会委員兼社会教育委員10人の委嘱に関する審議を、平成31年9月定例会にて文化財保護審議会委員9人の委嘱に関する審議を行った。 		
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各会の活動報告を求めるなど、活動内容の把握に努める。 		
		14	学齢児童生徒の就学すべき区域の設定及び変更に関すること。	-	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議すべき案件はなかった。 		
					<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針を踏まえ、適正化の進捗に合せ、区域の変更を検討していく。 		
		教育環境の整備	15	学校施設の環境整備	学校施設の環境整備	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場から要望のあった修繕案件に対して、実施可能なものは速やかに対応するとともに、長期的な対応が必要な案件については改修計画に基づいた学校設備の維持管理を行った。 ・次の改修工事を行い、学校施設の環境改善・安全対策を図った。 【トイレ改修】旭小 【防水工事】宇佐美小 【プール改修】南小 【普通教室空調】全校 ・老朽化した施設など、小学校206件・3,070万円、中学校114件・1,927万円の修繕を実施した。 ・【評価指標：トイレの改修済学校数 元年度目標：13校 実績：13校】
							<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初予算に加え生活環境向上対策予算も活用しながら、緊急性・危険性の高い案件から修繕を実施し、子どもたちの安全を守る。 ・修繕では対応できない案件については、長寿命化に配慮した工事を計画的に実施し、安心・安全な学校環境の整備を図る。

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算要求の内容報告を教育委員会事務局から受け、定例会の中で教育委員会の意見を明らかにした。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合教育会議等も活用し、第29条に定める議案に対する意見を申し出る。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点化事業及び新規事業の予算要求について、定例会で審議を行った。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決につながる事業・予算であるか、という視点に立った審議を心掛ける。
-	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議すべき案件はなかった。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各会の活動報告を求めるなど、活動内容の把握に努める。
-	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議すべき案件はなかった。
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に現状を把握する努力を重ねる。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場から要望のあった修繕案件に対して、実施可能なものは速やかに対応するとともに、長期的な対応が必要な案件については改修計画に基づいた学校設備の維持管理を行った。 ・次の改修工事を行い、学校施設の環境改善・安全対策を図った。 【トイレ改修】宇佐美中 【防水工事】富戸小、南中、宇佐美中 【体育館照明LED化】大池小、南中 【パソコン教室空調】旭小 ・老朽化した施設など、小学校192件・2,269万円、中学校109件・1,044万円の修繕を実施した。 ・【評価指標：トイレの改修済学校数 30年度目標：11校 実績：12校】
	<p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初予算に加え生活環境向上対策予算も活用しながら、緊急性・危険性の高い案件から修繕を実施し、子どもたちの安全を守る。 ・修繕では対応できない案件について計画的に工事を実施し、安心・安全な学校環境の整備を図る。

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育環境の整備	16	安全な学校給食の提供	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターで実施した、県教委による「学校給食の衛生管理等に関する調査研究(指導者等派遣)事業で、衛生管理、調理作業について指導を受け、市内調理場に於いても指導内容を共有し、安全な給食運営及び衛生管理の徹底を図った。 ・市の給食関係職員と委託会社職員とが連携し、野菜裁断機の刃の研磨や調理器具、機械類の点検をすることで、給食を原因とした人体に影響を及ぼす事故の発生を防ぐことが出来た。 ・市内統一のアレルギー対応方針に基づき、安全な給食提供が図られた。学校給食運営委員会では、医師から管理指導表や面談等のアレルギー対応に関する指導を受けたり、アレルギー対策委員会で意見交換をしたりすることで、更なる安全体制の確立に努めた。 ・下田高校に設置してある県の専門機器を活用した給食食材の放射性物質検査を平成24年度から引き続き実施し、いずれも検出はされなかった。(全8回で32食材の測定を実施) ・【評価指標:異物混入・アレルギー等の給食を原因とした人体に影響を及ぼす事項の発生件数 R元年度目標:0件 実績0件】
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の衛生管理、感染症の予防対策等を研修し、さらに安定的な給食提供が図れるよう給食管理に努める。また、食物アレルギーについては、対象者以外での発生や食物依存性運動誘発アナフィラキシー等の対応について情報を共有し、的確な対策を図る。
		17	魅力ある学校給食の提供	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立作成会議では、ふるさと給食の日、地場産物及び伝統食の継承献立、食育推進に資する魅力ある手作りのおいしい給食の提供を心掛け残食量の減少に努めた。 ・学校給食摂取基準が一部改正されたため、新しい基準量で献立作成が出来るよう、一部レシピの見直しを行い、データの入替え作業を実施した。 ・市の健康保養地づくり実行委員会が毎年開催している野菜料理レシピコンテストの学校給食賞「豆腐でヘルシー！ニラとじゃこの簡単チヂミ」を市内の学校給食で提供した。 ・静岡県がH28年度に制定した「小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例(静岡茶愛飲条例)」の取組の一環で、茶葉を使った献立「茶葉入りつくね」「魚のお茶揚げ」「お茶マフィン」を市内各校で定着メニューとし、地産地消及び食育の推進を図った。 ・【評価指標:給食における残食率 R元年度目標:前年度実績(4.79%)未満 実績:4.93%】
				改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食摂取基準の充足率が満たされるよう、実績量を考慮し献立作成に反映するよう検証に努める。 ・献立作成会議で、新メニューの開発や食材の提案を行い、学校給食の充実に努め、市内全ての給食室で魅力ある学校給食の提供を図る。 ・献立作成には、残食量データの活用や各コンクール受賞献立を積極的に取り上げるなど、より魅力ある学校給食の提供に努め、家庭へはクッキングタイム(給食レシピ)の発行により啓発を図りたい。

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターを拠点に、給食関係職員が主体的に、調理講習会や衛生管理研修会を開催することで、安全な給食運営の体制が図られた。 ・市の給食関係職員と委託会社職員とが連携し、調理作業の見直しや衛生管理体制を確認することで、給食を原因とした人体に影響を及ぼす事故の発生を防ぐことが出来た。 ・市内統一のアレルギー対応方針に基づき、安全な給食提供が図られた。また、学校給食運営委員会では、医師から管理指導表や面談等のアレルギー対応に関する情報や指導を受けることで更なる安全体制の確立に努めた。 ・下田高校に設置してある県の専門機器を活用した給食食材の放射性物質検査を平成24年度から引き続き実施し、いずれも検出はされなかった。(全8回で32食材の測定を実施) ・【評価指標:異物混入・アレルギー等の給食を原因とした人体に影響を及ぼす事項の発生件数 30年度目標:0件 実績0件】
改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委の研究授業方式による衛生管理研究会を通じ、最新の衛生管理、感染症の予防対策等を研修し、さらに安定的な給食管理に努める。また、食物アレルギーの対応について、給食運営委員会等で専門医や薬剤師の指導を受けるとともに施設ごとの情報を共有し、安全な対策を図る。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立作成会議を設定し、ふるさと給食の日、地場産物及び伝統食の継承献立、食育推進に資する魅力ある手作りのおいしい給食の提供を心掛け残食量の減少に至った。 ・給食センターの炊飯施設の開始に伴い、平成28年2学期から導入したサイカ式無洗米は2週間ごとの短期間の納期とし、味覚、栄養価の減少、異物のない、品質良好な精米の使用が出来た。 ・市の健康保養地づくり実行委員会が毎年開催している野菜料理レシピコンテストの学校給食賞の「かますのトマトチーズやき」、高校生考案「魚のにんじん衣ソテー」を市内の学校給食で実施。 ・また、静岡県がH28年度に制定した「小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例(静岡茶愛飲条例)」の取組の一環で、茶葉を使った献立「お茶ピラフ」「魚のお茶揚げ」「お茶マフィン」を市内各校で実施するなどし、地産地消及び食育の推進を図った。 ・【評価指標:給食における残食率 30年度目標:前年度実績(5.19%)未満 実績:4.79%】
改善の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・調理講習会を活用し、メニューの開発や調理技術の向上、学校給食の充実に努め、市内全ての給食室で安定的調理体制を図る。 ・献立作成には、残食量データの活用や各コンクール受賞献立を積極的に取り上げるなど、より魅力ある学校給食の提供に努め、家庭へはクッキングタイム(給食レシピ)の発行により啓発を図りたい。 ・学校給食摂取基準が一部改正され、実績栄養価の算出と検証に努める。

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育環境の整備	18	給食センターを活用した食育・地産地消の推進 学校給食を活用した食育・地産地消の推進	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校において栄養教諭を中心に年間計画を作成し、体系的な指導の実現、生活習慣づくりの推進を目指した。 ・地産地消推進事業については、平成28年度から保護者が負担する給食費とは別に市が地産地消推進事業費として経費を負担する取り組みを実施。地産地消推進事業費の活用により、サザエ、伊勢えび、和牛等の高価な食材や伊東産の野菜、果物を市内全校で調整し計画的に導入。また、11月には学校給食感謝の日を設定し、生産者と児童生徒が交流できる場とし、事業の意図を明確にすることが出来た。 ・【評価指標：給食食材を納入する地元農家軒数 R元年度目標：前年実績(4件)以上 実績：7件】
				改善	<ul style="list-style-type: none"> ・食育は栄養教諭を中心に、各栄養職員が年間計画や目標を設定し、指導媒体の作成等、情報交換し、効果的な成果が得られたか振り返ること、より体系的な指導の実現を目指す。地産地消推進事業については、積極的な活用と啓発活動により事業の更なる周知を図り、地場産物として活用できる食材の拡充に努めていきたい。
		19	教育用パソコン整備	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度における教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数は6.3人であった。【評価指標 令和元年度目標値 4.2人】 ※国が示したGIGAスクール構想においては1人1台端末の整備を目標としている。
				改善	<ul style="list-style-type: none"> ・国が推進するGIGAスクール構想に基づき、1人1台端末の整備を推進する。 ・中学校のパソコン室の機器が更新を迎えるが、1人1台端末整備を踏まえ、機器の構成・パソコン教室の使用方法を決定する。
		20	ICT教育環境整備の充実 無線LAN整備	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・国の示すGIGAスクール構想に基づき、校内LAN(無線LAN)整備に向けた予算を令和元年度3月補正予算に計上 ・既に整備済みの中学校の校内LAN(有線)も再構築を行う。 ・【評価指標：無線LAN整備学校数 令和元年度目標値：10校 実績：2校】
				改善	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想に基づき、校内LAN(無線LAN)整備を推進する。
		21	ICT機器の整備	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の全普通教室(106教室)に電子黒板と授業用ノートパソコンを106台整備した。また、書画カメラ69台も併せて整備した。 ・【評価指標：大型表示装置(テレビ等)の整備数 令和元年度目標：150台 実績：146台(達成率97%)】
				改善	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校への電子黒板導入を検討する。 ・その他のICT機器についても、国の整備方針を踏まえ、学校との協議の中で、本市にとって真に必要なICT機器の構成を検討し、計画的に整備を進めていく。

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校において特色ある食育計画を作成し給食時間を活用した食育を実施している。栄養教諭等を中心に、学区で連携し生活習慣づくりの推進を図った。 ・地産地消推進事業については、平成28年度から保護者が負担する給食費とは別に市が地産地消推進事業費として経費を負担する取り組みを実施。地産地消推進事業費の活用により、高価な地場産物や供給量の少ない地場産物について各校で調整し計画的に導入を図ることができた。事業についての理解が得られるよう、生産者が児童生徒と交流できる場(11月に学校給食感謝の日)を設定した。 ・【評価指標：給食食材を納入する地元農家軒数 30年度目標：前年実績(4件)以上 実績：7件】
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・食育は栄養教諭を中心に定期的に情報交換を実施することで、より体系的な指導の実現を目指す。地産地消推進事業については、積極的な活用と啓発活動により事業の更なる周知を図りたい。市内の業者、農家に協力を仰ぎ、地場産物として活用できる食材の拡充に努めていきたい。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度における教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数は6.4人であった。【評価指標 30年度目標値 5.0人】 ※新たな教育振興基本計画で目標とされている水準は1台当たり児童生徒数3人程度
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・本市にとって必要な教育パソコンの構成について、計画的に整備を進めていく。 ・令和元年度の小学校の教育用パソコン更新に当たり、学校現場で必要としている機器の整備に努める。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校5校の校内LAN(有線)を構築済み ・小学校10校の無線LANの構築に向けた検討を行い、モデル校を設定し、今後の整備に向けた課題等を検討することとした。 ・【評価指標：無線LAN整備学校数 30年度目標値：5校 実績：2校】
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・校内LANの整備とともに、無線LANの整備についても、計画的に整備を進めていく。 ・モデル校での無線LAN整備を行い、今後の整備に向けた課題等を把握する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の外国語の教科化に向け、移動式の大型テレビ20台、授業用ノートパソコン10台、タブレット17台を整備した。 ・【評価指標：大型表示装置(テレビ等)の整備数 30年度目標：100台 実績：40台(達成率40%)】
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・国の整備方針を踏まえ、学校との協議の中で、本市にとって真に必要なICT機器の構成を検討し、計画的に整備を進めていく。

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
教育総務課	教育環境の整備	22	少子化や地域の特性に対応した活力ある学校づくりの検討 小中学校の規模と配置の適正化	A	<p>・教育問題懇話会からの答申を踏まえ、令和元年8月に「伊東市立小中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針」を策定した。</p> <p>・方針には「令和3年4月に川奈小学校と南小学校を統合」と「令和5年4月に東小学校、西小学校と旭小学校の3校を1校に統合」の2つの具体的方策を掲げるとともに、その他の学校についても今後、改めて後期の方針として対応を掲げていく必要性を示した。</p> <p>・方針に掲げた2つの具体的方策のうち、令和3年4月の川奈小学校と南小学校の統合については、令和元年12月に両校のPTA、地域住民等が構成する学校統合地域協議会を設立し、令和3年4月1日からの統合に向けた課題等の具体的な協議に入った。</p> <p>・【評価指標：市民意向調査の実施 令和元年度目標：調査実施実績・基本方針の決定】</p>
				改善の視点	<p>・方針に掲げた2つの具体的方策のうち令和5年4月の3校の統合については、学区が広範囲に広がり、多くの行政区が関わることに加え、昨年度に各校で実施した保護者説明会でも統合に伴う学区設定の見直しを求める意見が多く出されたことから、学区の見直しには慎重な検討が必要であり、今後、保護者や地域に対する周知と意見交換を進めた上で地域協議会を立ち上げていく。</p>
幼児教育課	教育の充実（保育園）	23	多様な保育事業の実施 休日保育等の特別保育事業の実施	B	<p>評価の視点</p> <p>・休日保育は利用の少ない保育園1園を除き、全園で実施した。</p>
				改善の視点	<p>・休日保育は利用の少ない保育園で休止を検討する。</p> <p>・病児保育（体調不良児対応型）を宇佐美保育園で令和2年4月1日から開設準備</p> <p>・保護者アンケートを踏まえ、一時預かり事業、延長保育の充実について検討する。</p>
		24	地域における子育て支援拠点施設の整備 地域子育て支援拠点事業の充実	B	<p>評価の視点</p> <p>・令和元年度に子育て支援センター（7か所）を利用した人数が約2万7千人となった。</p>
				改善の視点	<p>・子育て世代が子育てを楽しめるよう支援の充実を目指す。</p>
		25	待機児童解消に向けた取組の実施 待機児童解消計画の推進	B	<p>評価の視点</p> <p>・令和2年4月1日現在の待機児童数は5人で、昨年と比較して6人の減となった。</p>
				改善の視点	<p>・保育室の改修による施設整備の実施や保育士の確保に努めるなど、待機児童の早期解消を目指す。</p>
		26	障がい児童等への支援 障がい児保育の充実	B	<p>評価の視点</p> <p>・全保育園への臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課保健師との連携により、発達に心配のある児童の支援体制を充実させた。</p> <p>・可能な限り障害のある児童の受入れを行った。</p>
				改善の視点	<p>・相談対象児童の増加や状態が複雑化する中、臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課との連携により、発達に心配のある児童の支援体制の充実を図る。</p> <p>・可能な限り障害のある児童の受入れを行っていく。</p>

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点
A	<p>評価の視点</p> <p>・平成30年4月の総合教育会議では、検討委員会による建議内容を議題に市長と教育委員との間で協議がなされ「本市の目指すべき適正な教育のあり方」と「その実現に向けた具体的方策」の2点を教育委員会の諮問機関である教育問題懇話会に諮問することとなった。</p> <p>・有識者等、委員7人で構成する教育問題懇話会を立ち上げ、授業視察のほか6回の会議を重ね、本市の子どもたちの将来の利益のためにどのような教育環境が望ましいのかを取りまとめ、平成31年2月25日には教育長に対して答申書が提出された。</p> <p>・【評価指標：市民意向調査の実施 平成30年度目標：調査実施 実績：教育問題懇話会による答申】</p>
	<p>改善の視点</p> <p>・教育問題懇話会からの答申を踏まえ、平成31年度中に教育委員会としての基本方針を策定していく。策定に当たっては、総合教育会議での市長と教育委員との協議を経て、パブリックコメントの実施、保護者説明会の開催等、丁寧な説明と市民等から広く意見を聴きながら策定していく。</p>
B	<p>評価の視点</p> <p>・休日保育は利用の少ない保育園1園を除き、全園で実施した。</p>
	<p>改善の視点</p> <p>・休日保育は利用の少ない保育園で休止を検討する。</p> <p>・病児保育（体調不良児対応型）を玖須美保育園で平成31年4月1日から開設準備</p> <p>・保護者アンケートを踏まえ、一時預かり事業、延長保育の充実について検討する。</p>
A	<p>評価の視点</p> <p>・伊東ショッピングプラザデュオ内に子育て支援センターつくしんぼを開設した。</p>
	<p>改善の視点</p> <p>・子育て世代が子育てを楽しめるよう支援の充実を目指す。</p>
B	<p>評価の視点</p> <p>・平成31年4月1日現在の待機児童数は11人で、昨年と比較して26人の減となった。</p>
	<p>改善の視点</p> <p>・小規模保育事業所開設支援（2園）を行うとともに、保育室の改修による利用定員の増を図るなど、待機児童の早期解消を目指す。</p>
B	<p>評価の視点</p> <p>・全保育園への臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課保健師との連携により、発達に心配のある児童の支援体制を充実させた。</p> <p>・可能な限り障害のある児童の受入れを行った。</p>
	<p>改善の視点</p> <p>・相談対象児童の増加や状態が複雑化する中、臨床心理士による巡回相談の実施や子育て支援課との連携により、発達に心配のある児童の支援体制の充実を図る。</p> <p>・可能な限り障害のある児童の受入れを行っていく。</p>

【令和元年度】

【平成30年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点	
幼児教育課	教育の充実（保育園）	27	認定こども園（幼保一体化施設）の整備	C	評価の視点	・認定こども園を視野に入れ、幼稚園・保育園の再編に向けた検討を行った。
					改善の視点	・幼稚園・保育園の再編に向けて、施設環境や保育ニーズの調査・研究を行う。 ・認定こども園の視察、職員の勉強会を実施する。
	28	食育の推進	B	評価の視点	・クッキング保育を行い、食材、栽培、調理を通じて食への興味、関心を育てる取組を行い、食べ物の有りがたさを感じさせる。	
				改善の視点	・栄養士による発達の段階に応じた食育を実施するとともに、季節の食べ物や地場産品について配付物・掲示物などを通じて教えていく。	
	29	幼稚園教育の充実	A	評価の視点	・経験年数や年齢に応じた研修会の参加、園内研修、実質的な研修会参加者による報告会、市立幼稚園研究協議会主催による講演会の開催により、幼児教育向上が図られた。	
				改善の視点	・研修による情報共有や、より専門的な研修の受講により、幼児教育向上を進める。	
	30	私立幼稚園への支援	A	評価の視点	・子ども子育て支援法に基づき、引き続き、野間自由幼稚園及び伊東聖母幼稚園に施設型給付費並びに預かり保育委託料の支出を行い、一部改正による保育料等の無償化を図った。	
				改善の視点	・子ども子育て支援法に沿った幼稚園運営が行われているか、市による指導監査を行い、子育て環境の向上を図る。	
	31	保護者とともに子どもの育ちを支える支援の推進	A	評価の視点	・伊東、宇佐美、八幡野幼稚園、荻幼稚園、南幼稚園富士見分園の5園で預かり保育を開始した。預かり保育準備委員会を開催し、各園での実施状況の確認や課題を検討した。	
				改善の視点	伊東・宇佐美、八幡野、荻幼稚園、南幼稚園富士見分園の5園での実施状況により、利用希望者の受入体制及び円滑な事業実施のため、教諭による預かり保育事業の実施を図る。	
	32	特別支援員の配置	A	評価の視点	支援を必要とする園児の状況により特別支援員を配置している。全園に19人を配置し、園や園児の状況に併せて適切な配置を行った。	
				改善の視点	・有資格者の特別支援員の確保、研修の実施、関係機関と連携し、園児一人一人の発達の特性に応じた適切な教育及び支援を目指す。	

評価	評価及び改善の視点	
C	評価の視点	・幼稚園、保育園間の職員交流を行った。 ・認定こども園の建設に向けた検討を行った。
	改善の視点	・幼稚園、保育園間の職員交流、認定こども園の勉強会を実施する。 ・認定こども園の建設に向けた、先進自治体を視察するとともに調査・研究を行う。
B	評価の視点	・クッキング保育を行い、食材、栽培、調理を通じて食への興味、関心を育てる取組を行い、食べ物の有りがたさを感じさせる。
	改善の視点	・発達の段階に応じ、季節の食べ物や地場産品について配付物・掲示物などを通じて教えていく。
A	評価の視点	・経験年数や年齢に応じた研修会の参加、園内研修、実質的な研修会参加者による報告会、市立幼稚園研究協議会主催による講演会の開催により、幼児教育向上が図られた。
	改善の視点	・研修による情報共有や、より専門的な研修の受講により、幼児教育向上を進める。
A	評価の視点	・子ども子育て支援法に基づき、引き続き、施設型給付費及び預かり保育委託料を野間自由幼稚園に支出するとともに、伊東聖母幼稚園に施設型給付費の支出を行い、新制度移行を図った。
	改善の視点	・子ども子育て支援法に沿った幼稚園運営が行われているか、市による指導監査を行い、子育て環境の向上を図る。
B	評価の視点	・宇佐美、八幡野幼稚園、荻幼稚園、南幼稚園富士見分園の4園で預かり保育を開始した。預かり保育準備委員会を3回開催し、各園での実施状況や課題により、内容の改善を図り、また、在園児及び入園予定者の保護者アンケート結果に基づき、実施内容の充実に向けた検討を行い、次年度への準備を行った。
	改善の視点	宇佐美、八幡野、荻幼稚園、南幼稚園富士見分園の4園に加えて伊東幼稚園での実施を図っていく。また、利用者の増加を目指し、アンケート結果を踏まえた取り組みの検討を図る。
A	評価の視点	支援を必要とする園児の状況により特別支援員を配置している。実施園10園中9園に18人を配置し、園や園児の状況に併せた適切な配置を行った。
	改善の視点	・有資格者の特別支援員の確保、研修の実施、関係機関と連携し、園児一人一人の発達の特性に応じた適切な教育及び支援を目指す。

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点		
幼児教育課	教育の充実（幼稚園）	33	集団保育を実施するための環境整備 複式クラス幼稚園の統合	C	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1園当たりの平均人数44.7人と目標値の50人に達していないが、他園との交流により集団保育を実施する環境整備に努めた。また、集団保育確保が困難となった鎌田・南幼稚園において、保護者説明会を開催し、理解を求め令和2年3月31日をもって休園とした。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の統合や他園との交流により集団保育を実施する環境を整備し、保育の質の向上を目指す。 		
				A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園との人事交流により、通常保育や預かり保育実施及び運営を通して、幼稚園保育の質の向上を図った。全教諭の保育園との人事交流は概ね終了した。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事交流期間を長期化するなど、より専門的なスキルを習得し、幼保連携に対応した適切な支援を目指す。 		
		35	公立幼稚園の認定こども園への移行	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園園長による認定こども園の視察により、管理・運営状況に係わる情報収集を図った。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園及び幼稚園のあり方を検討し、少子化による幼稚園の統廃合を含めた認定こども園の移行に努める。 		
				B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で地域の特色や子どもの実態に即した教育課程編成を考え、それらを生かした各校ならではの教育活動を行った。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動を定期的に評価・反省し、改善を図りながらより一層、特色があり、充実した編成となるようにしたい。 		
		教育指導課	教育の充実（小・中学校）	36	特色を生かした教育課程の編成	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との信頼関係を強化するために「情報」「課題」「ビジョン」を共有し、パートナーとなる。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年に1回以上は各学区で地域と情報交換を進める場をもち、より一層結びつきを深めながら「学校を核とした地域づくり」に努めたい。
						B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で清掃はもちろんのこと、学びに適した環境を整えられるようにした。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学校・教室の環境整備に自発性をもって取り組めるように努めたい。
38	美しく整った環境づくり			B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい挨拶を自然に交し合うことができるよう、発達段階に応じ丁寧な指導を行った。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学級、他学年、地域の大人など、学校内外を問わず日常生活の中で自然に挨拶を交わすことができるようにしていきたい。 		
				B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に学び、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることができるよう、学び手の視点で授業を構想し実現しようとする取組が見られた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着が図られるよう日々の授業の充実が図られるよう努め、その伸長を児童生徒と共有していきけるようにする。 		

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点
C	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1園当たりの平均人数46.0人と目標値の50人に達していないが、他園との交流により集団保育を実施する環境整備に努めた。また、集団保育確保が困難となった竹の台幼稚園において、保護者説明会を開催し、理解を求め、休園とした。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の統合や他園との交流により集団保育を実施する環境を整備し、保育の質の向上を目指す。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園との人事交流により、通常保育や預かり保育実施及び運営を通して、幼稚園保育の質の向上を図った。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする園児の増加により、さくら園での人事交流の回数を増やし、専門的なスキルを習得し、適切な支援を目指す。
C	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園視察が計画的に行えず、円滑な移行に向けた情報収集が図れなかった。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の視察、幼稚園の統合及び預かり保育実施園の増加を進め、認定こども園移行に努める。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で子どもの実態や発達段階に応じ、地域の特色を生かす教育課程を編成し特色ある教育活動の展開に努めた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で定期的に教育活動を振り返り、改善を図りながら充実した教育課程の編成となるようにしたい。
B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で子供を育てていくよう、地域の人・もの・行事等を活用しながら信頼関係を築いてきている。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学区で情報交換を進める中で、より一層結びつきを深めながら地域と共にある学校づくりに努めていきたい。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びに適した環境づくり、児童生徒の美化意識の醸成に努めた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校において日々の清掃活動の充実、環境整備の充実が図られるよう努めたい。
B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校において、挨拶を基本的な生活習慣の一つとして捉え、発達段階に応じて丁寧に指導しており、挨拶への意識は向上している。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、学校内外で自然に挨拶を交わすことができるようにしていきたい。
	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に学び、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることを大切にしたい取組が見られた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業の充実を図るとともに、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着が更に図られるよう努めていきたい。

【令和元年度】

担当 課	施策 分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点	
教育 指導課	教育の 充実（小・ 中学校）	41	「学びを 楽しむ 力」の育 成	B	評価の 視点	・全国学力・学習状況調査の質問紙調査結果から、家庭学習の定着が図られていることが伺える。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という設問では、県平均を小学校で8.0P、中学校で3.0P上回った。
					改善の 視点	・学力向上につながるよう、家庭と協力しながら取組の充実を図っていききたい。
		42	主体性や学ぶ 意欲・態度の 育成	B	評価の 視点	・各教科等において、児童生徒が主体的に学ぶことができるよう、学び手の視点で授業を構想し実現しようとする取組が見られた。
					改善の 視点	・日々の授業の充実を図るとともに、その伸長を児童生徒と共有していくことを大切にしたい。
		43	規範意識の育 成	B	評価の 視点	・保幼小連携により、発達段階に応じた規範意識の育成について共有化され、浸透してきている。
					改善の 視点	・保幼小の連携に加え、家庭や地域の協力も得ながら規範意識の育成に努めていきたい。
		44	自己肯定感の 育成	B	評価の 視点	・児童生徒のよさを認め、励まし、伸ばしていこうとする個に応じた支援・指導が定着してきている。
					改善の 視点	・教職員と児童生徒の関係に加え、児童生徒相互の信頼関係づくりに努め、支持的風土の醸成を進めていきたい。
		45	「人として 備えたい 力」の育 成	C	評価の 視点	・保幼小連携の柱として、発達段階に応じた忍耐力の育成を目指した指導を継続的に行っている。
					改善の 視点	・学校生活の中で、児童生徒一人一人が満足感や達成感を味わえるような指導・支援に努めたい。
		46	思いやりの育 成	B	評価の 視点	・「人間関係づくりプログラム」や行事等を活用し、意図的に関わり合ったり、相手の立場に立って思考したりする場を設定するなど、他者を思いやる心の育成が意識されている。
					改善の 視点	・学校教育全体を通じて思いやりの心が育成されるよう、日頃から子供の姿を的確にとらえ、認め、励ましていくことを大切にしていきたい。
		47	社会性の育 成	C	評価の 視点	・生活科や総合的な学習の時間の中で、積極的に地域の方々との触れ合いを行い、丁寧に指導されている。
					改善の 視点	・同学年や異学年集団での関わりを学校生活の様々な場面で設定したり、地域の大人との関わりを設定したりしていく必要がある。
48	「命を守る 力」の育 成	B	評価の 視点	・伊東市立学校防災対策方針に基づき、各校で学校防災計画を作成し、防災教育、避難訓練等を継続的に実施することで意識化が図る。		
			改善の 視点	・交通安全、生活安全、災害安全のそれぞれの視点で、自分の命を守るべき行動について、児童生徒が自分事として考えられるよう、指導の徹底を図りたい。		

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点	
B	評価の 視点	・全国学力・学習状況調査の質問紙調査結果から、家庭学習の定着が図られていることが伺える。
	改善の 視点	・児童生徒の発達段階に応じた適切な学習習慣の定着が学力向上につながるよう、家庭と協力しながら取組の充実を図っていききたい。
B	評価の 視点	・全国学力・学習状況調査の結果から、児童生徒が主体的に学習に取り組もうとする様子が見られた。
	改善の 視点	・児童生徒が自分事として考え、主体的に取り組む授業づくりを推進したい。
B	評価の 視点	・保幼小連携により、発達段階に応じた規範意識の育成が図られ、浸透してきている。
	改善の 視点	・家庭や地域との協力に加え、家庭や地域の協力も得ながら、発達段階に応じた規範意識の育成に努めていきたい。
B	評価の 視点	・児童生徒の良さを認め、励まし、伸ばしていこうとする指導・支援が定着してきている。
	改善の 視点	・教職員と児童生徒の関係に加え、児童生徒が相互に認め、励まし、高め合う体制づくりの充実を努めたい。
C	評価の 視点	・保幼小連携の柱として教職員が意識を持ちながら、忍耐力の育成を目指した継続的な指導が見られる。
	改善の 視点	・学校生活の様々な場面で、発達段階に応じた粘り強い指導・支援の積み重ねを目指したい。
B	評価の 視点	・「人間関係づくりプログラム」等を活用し意図的に関わり合ったり、相手の立場に立って思考したりする場を設定するなど、他者を思いやる心の育成が意識されている。
	改善の 視点	・学校生活の中で子供の姿を的確に認め、励まし、価値付けながら思いやりの心が育成されるよう、日常の積み重ねを大切にしていきたい。
C	評価の 視点	・生活科や総合的な学習の時間の中で、地域の方々との積極的な触れ合いを通し、丁寧に指導されている。
	改善の 視点	・学校生活の様々な場面で、同学年や異学年集団での関わりを意図的に設定したり、地域の大人との関わりを設定したりしていく必要がある。
B	評価の 視点	・伊東市立学校防災対策方針に基づき、各校で学校防災計画を作成し、防災教育、避難訓練等を継続的に実施することで意識化が図られた。
	改善の 視点	・交通安全、生活安全、災害安全のそれぞれの視点で、自分の命を守るべき行動について、児童生徒が自分事として考えられるよう、指導の徹底を図りたい。

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点		
教育指導課	教育の充実（小・中学校）	49	健康的な生活習慣の定着	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ごはん」についての指導が継続的に行われ、規則正しい生活を送ろうとする意識の向上が見られた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境に差があるため、児童生徒一人一人に目を向け、必要に応じて関係機関と協力しながら個への支援の充実を図りたい。 		
				B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食育授業の継続的な実施により、発達段階に応じて、食の大切さ等について意識化が図られている。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育授業の継続的な実施により、望ましい食習慣の重要性について更に理解を深め、日常生活に生かせるようにしたい。 		
		50	「命を守る力」の育成	望ましい食習慣の定着	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が全体的に全国平均を上回っている。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの視点を持ち、運動に親しむ態度を養い、児童生徒一人一人が体力向上に向けて自主的に取り組んでいけるようにしたい。 	
					B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員等の増員をはじめ、多人数学級支援員も増員し、様々な児童生徒の個々の課題に対応できるようにした。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な支援を要する児童生徒が増加している状況に対応できるよう今後も引き続き支援体制の充実を図りたい。 	
		51	丈夫で健康な体の育成	教育支援の充実	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。（元年度目標値235団体、実績288団体、目標達成） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらおうよう取り組む。 	
					B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページに公開している生涯学習指導者数を指標とする。（元年度目標値90人、実績63人、達成度70%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の育成を図る機会を増やすため、SNSや広報誌等を活用し、生涯学習指導者の登録を促していく。 	
		52	教育的支援体制の充実	教育支援の充実	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。（30年度目標値235団体、実績244団体、目標達成） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらおうよう取り組む。 	
					A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（元年度目標値22件、実績17件、達成度77%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の生涯学習団体に対し、団体の活動の様子を広報するツールとして、市広報等があることを周知し、掲載情報を増やすことで、多くの市民に生涯学習団体の情報を提供するよう努める。 	
		生涯学習課	生涯学習活動の推進	53	学習情報の収集発信	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。（30年度目標値235団体、実績244団体、目標達成） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらおうよう取り組む。
						A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページに公開している生涯学習指導者数を指標とする。（30年度目標値80人、実績72人、達成度90%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も指導者の育成を図ることができるよう生涯学習の環境を向上させていく。
				54	生涯学習指導者の育成	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（30年度目標値22件、実績17件、達成度77%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の生涯学習団体に対し、団体の活動の様子を広報するツールとして、市広報等があることを周知し、掲載情報を増やすことで、多くの市民に生涯学習団体の情報を提供するよう努める。
		55	生涯学習団体の情報提供	生涯学習団体の情報提供	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（30年度目標値22件、実績17件、達成度77%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の生涯学習団体に対し、団体の活動の様子を広報するツールとして、市広報等があることを周知し、掲載情報を増やすことで、多くの市民に生涯学習団体の情報を提供するよう努める。 	
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（30年度目標値22件、実績17件、達成度77%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体の情報を多くの市民に知ってもらうため、情報内容のわかりやすさのほか、情報提供する媒体を増やすよう努める。 						

【平成30年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点		
教育指導課	教育の充実（小・中学校）	49	健康的な生活習慣の定着	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ごはん」についての継続的な指導が行われ、規則正しい生活を送ろうとする意識の向上が見られた。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境に差があるため、児童生徒一人一人に目を向け、必要に応じて関係機関と協力しながら個への支援の充実を図りたい。 		
				B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食育授業の継続的な実施により、発達段階に応じて、食の大切さ等について意識化が図られている。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育授業を継続し、家庭との連携をさらに進めることで学んだことについての定着を図りたい。 		
		50	「命を守る力」の育成	望ましい食習慣の定着	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、全体的に全国平均を上回っている。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの視点を持ち、運動に親しむ態度を養い、児童生徒一人一人が体力向上に向けて自主的に取り組んでいけるようにしたい。 	
					B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員等の増員をはじめ、多人数学級支援員も増員し、様々な児童生徒の個々の課題に対応できるようにした。 <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童生徒一人一人の状況に応じた支援体制の充実を努めていきたい。 	
		51	丈夫で健康な体の育成	教育支援の充実	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。（30年度目標値235団体、実績244団体、目標達成） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらおうよう取り組む。 	
					B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページに公開している生涯学習指導者数を指標とする。（30年度目標値80人、実績72人、達成度90%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も指導者の育成を図ることができるよう生涯学習の環境を向上させていく。 	
		52	教育的支援体制の充実	教育支援の充実	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。（30年度目標値235団体、実績244団体、目標達成） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらおうよう取り組む。 	
					A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（30年度目標値22件、実績17件、達成度77%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の生涯学習団体に対し、団体の活動の様子を広報するツールとして、市広報等があることを周知し、掲載情報を増やすことで、多くの市民に生涯学習団体の情報を提供するよう努める。 	
		生涯学習課	生涯学習活動の推進	53	学習情報の収集発信	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびのとびら」掲載団体を指標とし、市民に対し生涯学習団体の情報を広く収集し、発信することにより生涯学習の推進を図った。（30年度目標値235団体、実績244団体、目標達成） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、2年に1度冊子として「まなびのとびら」の発行、随時更新でホームページに同情報を掲載しているが、掲載内容を分かりやすくし、発行部数や配付先を増やす等、多くの市民に認識してもらおうよう取り組む。
						A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページに公開している生涯学習指導者数を指標とする。（30年度目標値80人、実績72人、達成度90%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も指導者の育成を図ることができるよう生涯学習の環境を向上させていく。
				54	生涯学習指導者の育成	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（30年度目標値22件、実績17件、達成度77%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の生涯学習団体に対し、団体の活動の様子を広報するツールとして、市広報等があることを周知し、掲載情報を増やすことで、多くの市民に生涯学習団体の情報を提供するよう努める。
		55	生涯学習団体の情報提供	生涯学習団体の情報提供	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（30年度目標値22件、実績17件、達成度77%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の生涯学習団体に対し、団体の活動の様子を広報するツールとして、市広報等があることを周知し、掲載情報を増やすことで、多くの市民に生涯学習団体の情報を提供するよう努める。 	
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報等において生涯学習団体を市民に提供した回数を指標とし、市民がサークル活動等に参加する機会を増やし、生涯学習の充実を図った。（30年度目標値22件、実績17件、達成度77%） <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体の情報を多くの市民に知ってもらうため、情報内容のわかりやすさのほか、情報提供する媒体を増やすよう努める。 						

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点	
生涯学習課	生涯学習活動の推進	56	市民向け学習講座・教室の開催	評価の視点	・市民大学・いでゆ大学の延べ参加者数を指標とし、市民向け学習講座等をきっかけに参加者が新たなサークル等を作るなど、自主活動を広げ学習機会の充実を図った。(元年度目標値1,650人、実績1,506人、達成度91%)	
				改善の視点	・これからも多くの市民の学習機会を創出するため、ニーズに合った学習メニューの設定のほか、開催場所や時間などを検討していく。	
		57	生涯学習団体への支援	評価の視点	・生涯学習活動を積極的に行う団体数を指標とし、その団体を支援することにより地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進を図った。(元年度目標値248団体、実績149団体、達成度60%)	
				改善の視点	・生涯学習活動を積極的に行う団体を支援し、多くの団体が活動できる環境整備を図っていく。	
		58	市民の自発的生涯学習活動の推進	学習成果を活かした地域における学習交流の推進	評価の視点	・3地域生涯学習センターと4コミュニティセンターの自主的サークルの使用回数を指標とし、地域における学習交流の推進を図った。(元年度目標値延べ6,900回、実績延べ12,345回、目標達成)
					改善の視点	・地域における学習交流拠点である施設の利便性を高め、市民の自主的な活動を推進する。
59	家庭教育に関する学習機会と内容の充実	A	評価の視点	・家庭教育学級のほか家庭教育支援アドバイザーを活用した家庭教育支援講座及び親学講座を実施し、家庭教育に関する学習機会の充実を図った。(元年度目標値14校、実績11校、達成度79%) ※家庭教育支援講座6回(156人)、親学講座6回(213人)		
			改善の視点	・家庭教育学級の開催を呼びかけるとともに、家庭教育支援講座等の活用について、各校(園)と連携し、内容の充実を図る。		
60	図書資料の充実	A	評価の視点	・図書資料を充実させるため、年間を通して計画的に図書資料を購入し、目標値は達成できなかったが、前年度実績は上回った。(元年度目標値7,390冊、実績5,320冊、達成度72%)		
			改善の視点	・計画的な予算増のほか、書誌等の購入スポンサー制度の導入など図書資料の充実につながる取り組みを行っていく。		
61	図書館機能の充実	B	評価の視点	・貸出延人数を指標とし、利用者の利便性向上に努めたが、目標人数には届かなかった。(元年度目標値80,720人、実績56,772人、達成度70%)		
			改善の視点	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策により利用者サービスを制限しなければならないが、可能な限り、利用者サービスのさらなる向上を図っていく。		

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点	
A	評価の視点	・市民大学・いでゆ大学の延べ参加者数を指標とし、市民向け学習講座等をきっかけに参加者が新たなサークル等を作るなど、自主活動を広げ学習機会の充実を図った。(30年度目標値1,600人、実績1,614人、目標達成)
	改善の視点	・これからも多くの市民の学習機会を創出するため、ニーズに合った学習メニューの設定のほか、開催場所や時間などを検討していく。
B	評価の視点	・生涯学習活動を積極的に行う団体数を指標とし、その団体を支援することにより地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進を図った。(30年度目標値246団体、実績185団体、達成度75%)
	改善の視点	・生涯学習活動を積極的に行う団体を支援し、多くの団体が活動できる環境整備を図っていく。
A	評価の視点	・3地域生涯学習センターと4コミュニティセンターの自主的サークルの使用回数を指標とし、地域における学習交流の推進を図った。(30年度目標値延べ6,800回、実績延べ8,284回、目標達成)
	改善の視点	・地域における学習交流拠点である施設の利便性を高め、市民の自主的な活動を推進する。
A	評価の視点	・家庭教育学級数は目標に届かなかったが、新たに家庭教育支援アドバイザーを活用した家庭教育支援講座及び親学講座を実施し、家庭教育に関する学習機会の充実を図った。(30年度目標値12校、実績7校、達成度58%) ※家庭教育支援講座7回(175人)、親学講座6回(187人)
	改善の視点	・家庭教育学級の開催を呼びかけるとともに、家庭教育支援講座等の活用について、各校(園)と連携し、内容の充実を図る。
B	評価の視点	・図書資料を充実させるため、年間を通して計画的に図書資料を購入した。(30年度目標値6,630冊、実績4,333冊、達成度65%)
	改善の視点	・計画的な予算増のほか、書誌等の購入スポンサー制度の導入など図書資料の充実につながる取り組みを行っていく。
B	評価の視点	・貸出延人数を指標とし、利用者の利便性向上に努めたが、目標人数には届かなかった。(30年度目標値76,440人、実績61,468人、達成度80%)
	改善の視点	・これまで行ってきた利用者サービスのさらなる向上のほか、館内の開架環境の改善、中・高校生などの若年層の利用を促すためのイベントなどの開催など図書館を身近に感じられる取り組みを進めていく。

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点
生涯学習課	市民スポーツ活動の支援	62	スポーツ指導者の養成	C	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の脱退が増えており、指導者数の減少に歯止めがかからない傾向にある。(元年度目標値95人、実績48人、達成度50%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者同士の横の連携を深めるとともに、人材の発掘に努める。
				A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・按針祭協賛スポーツ祭、伊東市スポーツ祭、陸上カーニバル、オレンジビーチマラソン、伊東駅伝、地域体育振興会スポーツ大会の参加人数を指標とし、市民がスポーツに参加できる機会を提供した。(元年度目標値10,800人、実績10,300人、達成度95%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツへの関心は高いことから、今後も参加機会の提供が増加できるよう努める。
		63	スポーツ大会や教室の実施	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設改修計画に基づく改修率を指標とし、市民が広く利用できる施設の環境整備を行っていく。(要望に対する取組率 元年度目標値100%、実績 要望3件・取組3回、達成度100%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民運動場整備等実施設計業務委託、南中学校夜間照明設備設置工事、大原武道場空調設備設置工事を行い、スポーツ環境の向上に向けた取組みを実施した。伊東市体育施設整備基金も大幅な積み立てができ、今後も施設整備の調査・研究に努める。
				A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市芸術祭の出品者数、参加者数、観客数の合計を指標とし、市民が自ら芸術文化に触れる機会の創出を図った。(元年度目標値13,800人、実績8,992人、達成度65%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に減少傾向にある中、展示の工夫などにより、現状維持されている。今後も更なる工夫や、市民の参加を促していく。
		64	スポーツ環境の整備	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座及び教室の参加者数を指標とし、文化財に対する理解を深めた。(元年度目標値95人、実績951人、目標達成) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校への出前授業や団体への出前講座により、文化財や歴史の普及に努める。
				A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。(元年度目標値235人、実績210人、達成度89%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史資料管理事業として、収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。
	歴史・芸術文化の振興	65	市芸術祭の開催	B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。(元年度目標値235人、実績210人、達成度89%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史資料管理事業として、収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。
				A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。(元年度目標値235人、実績210人、達成度89%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史資料管理事業として、収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。
		66	文化財等に関する講座・教室の開催	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。(元年度目標値235人、実績210人、達成度89%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史資料管理事業として、収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。
				A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。(元年度目標値235人、実績210人、達成度89%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史資料管理事業として、収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。
	67	歴史文化情報の発信	A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。(元年度目標値235人、実績210人、達成度89%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史資料管理事業として、収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。 	
			A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。(元年度目標値235人、実績210人、達成度89%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史資料管理事業として、収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。 	

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点
B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者の指導者数を指標とし、市民が気軽にスポーツを行える環境を整備した。(30年度目標値90人、実績59人、達成度66%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者同士の横の連携を深め、情報共有することにより、指導者の不安や悩みが解消できるよう努める。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・按針祭協賛スポーツ祭、伊東市スポーツ祭、陸上カーニバル、オレンジビーチマラソン、伊東駅伝、地域体育振興会スポーツ大会の参加人数を指標とし、市民がスポーツに参加できる機会を提供した。(30年度目標値10,600人、実績10,385人、達成度98%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツへの関心は高いことから、今後も参加機会の提供が増加できるよう努める。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設改修計画に基づく改修率を指標とし、市民が広く利用できる施設の環境整備を行っていく。(要望に対する取組率 30年度 目標値100%、実績 要望2件・取組2回、達成度100%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民運動場整備計画策定業務を委託し、新設体育施設整備に向けて取り組んだ。伊東市体育施設整備基金も大幅な積み立てができ、今後も施設整備の調査・研究に努める。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市芸術祭の出品者数、参加者数、観客数の合計を指標とし、市民が自ら芸術文化に触れる機会の創出を図った。(30年度目標値13,600人、実績11,825人、達成度87%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に減少傾向にある中、展示の工夫などにより、現状維持されている。今後も更なる工夫や、市民の参加を促していく。
A	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座及び教室の参加者数を指標とし、文化財に対する理解を深めた。(30年度目標値90人、実績530人、目標達成) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校への出前授業や団体への出前講座により、文化財や歴史の普及に努める。
B	<p>評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史講座、講演会の参加者数を指標とし、市史資料管理事業への理解と関心を深めるとともに、次の世代に歴史、文化を継承した。(30年度目標値230人、実績166人、達成度72%) <p>改善の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市史資料管理事業として、収集された歴史情報を、今後も積極的に公開していく。

【令和元年度】

担当課	施策分野	No.	事業名	評価	評価及び改善の視点	
生涯学習課	文化史・芸術	68	芸術文化活動の支援	文化育成への支援	C	評価の視点 ・伝統文化子ども育成支援数を指標とし、伝統文化の育成と継承に努めた。(元年度目標値9団体、実績5団体、達成度56%)
						改善の視点 ・伝統文化子ども育成支援への申請が一定化していることから、広報により、伝統文化の育成と継承に努める。
	青少年の健全な育成	69	声かけ・あいさつ運動の推進	声かけあいさつ運動の推進	A	評価の視点 ・あいさつ運動賛同者数を指標とし、学校や各団体等と連携を図り、組織的にあいさつの輪を広げていき、地域づくりや安全な環境づくりに寄与した。(元年度目標値20,100人、実績17,494人、達成度87%)
						改善の視点 ・日々の活動や7月、11月のあいさつ一斉活動等を中心に取り組むほか、本活動を掲載している「かわら版」を広報に折込む等、市民に周知し賛同者を増やし市全体で「あいさつ運動」を推進していく。
		70	地区青少年健全育成活動の活発化	青少年育成市民会議の推進	A	評価の視点 ・地域ぐるみの青少年健全育成活動の参加者総数を指標とし、市民総ぐるみの運動を展開し、青少年の心身の健全な育成を図った。(元年度目標値550人、実績500人、達成度91%)
						改善の視点 ・市内15地区にある青少年育成市民会議の活動を積極的に支援することで活性化を図っていくほか、少子化等により活動を縮小せざるを得ない地区等には、効果的な活動を協議していく。

【平成30年度】

評価	評価及び改善の視点
B	評価の視点 ・伝統文化子ども育成支援数を指標とし、伝統文化の育成と継承に努めた。(30年度目標値8団体、実績5団体、達成度62%)
	改善の視点 ・伝統文化子ども育成支援件数を増やすため、継続支援や広報により、伝統文化の育成と継承に努める。
A	評価の視点 ・あいさつ運動賛同者数を指標とし、学校や各団体等と連携を図り、組織的にあいさつの輪を広げていき、地域づくりや安全な環境づくりに寄与した。(30年度目標値19,200人、実績17,394人、達成度91%)
	改善の視点 ・日々の活動や7月、11月のあいさつ一斉活動等を中心に取り組むほか、本活動を掲載している「かわら版」を広報に折込む等、市民に周知し賛同者を増やし市全体で「あいさつ運動」を推進していく。
A	評価の視点 ・地域ぐるみの青少年健全育成活動の参加者総数を指標とし、市民総ぐるみの運動を展開し、青少年の心身の健全な育成を図った。(30年度目標値550人、実績500人、達成度91%)
	改善の視点 ・市内15地区にある青少年育成市民会議の活動を積極的に支援することで活性化を図っていくほか、少子化等により活動を縮小せざるを得ない地区等には、効果的な活動を協議していく。

7 学識経験者による意見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定されている学識経験者による知見の活用は、今日までの伊東市の教育行政の課題を理解しているという観点から本年度も保護者団体、教育経験者等を活用することとし、次の3名の方から様々なご意見、ご助言をいただきました。

(50音順 敬称略)

氏 名	所 属 等
操上 俊樹	教育経験者（伊東市立学校校長会会長）
中井 智実	伊東市PTA連絡協議会会長
杉田 純子	元教育委員長

伊東市教育委員会の自己点検・評価への意見

1 全体について

- ・ 前年度と比較して評価向上が5事業、評価低下は7事業となっており、教育行政に対する期待とさまざまな課題や要求が大きくなっていく一方で、それらひとつひとつに答えていくことが難しくなってきたことが伺われます。
- ・ 令和元年度末から、新型コロナウイルス感染症への対応に追われてきていますが、予算執行計画の変更や園・学校整備計画、給食計画等、教育委員会が全力で取り組んでいただいたおかげで、現場が大きく混乱することなく、園・学校運営ができています。
- ・ コロナ禍においても、学校授業・行事等でとても工夫をされていて本当に有り難いと思っています。簡単に終わるコロナではないと気づき始めた今、「子ども達の自立」に繋がる行事については、創意工夫し、実施を見据えて進んでいって欲しいと思います。

2 教育委員会の活動について

- ・ 日頃から、教育委員会が園・学校の実情の把握に努め、現場の声を丁寧に聴いていただきまして感謝しています。現場へのニーズが大きくなるにつれ、その対応に苦慮することも多いですが、今後も園・学校と教育委員会が連携をしていけることをお願いします。また、現場の状況を市長や市長部局にも届けていただきたいと思います。

3 教育環境の整備について

(1) No.15「学校施設の環境整備」について

- ・ 学校施設の維持管理・改修について、比較的大規模な事業は、学校現場や地域の要望に可能な限り対応して頂いていることは評価・理解しています。一方、小規模修繕や緊急性の高い案件等に対し、スピード感をもって対応するために、学校現場の裁量を広げつつ、目に見える教育環境の向上に対し、よりきめ細やかで重点化した取組をお願いします。

また、今後の学校統合により、「統合後の学校施設に対するリソースの重点化」の取組を可視化し、「統合メリット」を分かりやすく発信することで、さらに統合に関する理解促進が図れるものと思います。

(2) No. 19 から 21 の「ICT環境整備の充実」について

- ・ ICT社会における教育格差を発生させないために、GIGAスクール構想に基づく学校内ICT環境の整備を強力に推進するとともに、学校現場で日常的にICTを活用した指導体制を整えられよう、学校現場の業務改善や研修等に努めてください。

また、児童生徒1人1台端末の環境が整いましたら、長期休暇等にオンラインでの学活等を行うなど、様々な試行を行い、学校現場及び家庭のリテラシーを高める取組をお願いします。

- ・ ICT機器の整備等が順調に進んでいることは喜ばしいと思います。電子黒板の整備に続き、児童生徒1人1台端末の整備を進めて欲しいと思います。
- ・ No.21「ICT機器の整備」については、平成30年度はD評価であったが、令和元年度にはA評価となったことは、園・学校にとってたいへん有益であったという証明だと思えます。全国的に整備が加速化している中、このような環境整備の推進が、伊東市の子どもたちの学力向上につながるように、教員のICT教育に関する指導力向上を図っていく必要があると思えます。

(3) No.22「小中学校の規模と配置の適正化」について

- ・ 統合により閉鎖する学校以外の保護者・児童の関心は意外と低いと思いますが、全市の保護者に向け、学校を通じ、本情勢についての情報提供を定期的に発信できることが望ましいです。
- ・ 令和3年からの川奈小学校と南小学校の統合に向け、川奈小学校の先生方は子ども達に対して大変気配りされていますが、今後子ども達のストレスや不登校等への配慮が必要となると思えますので、対応をお願いします。

また、今後、学校統合によるプラス面・マイナス面をしっかりと受け止める「委員会」の設置が必要と思われます。

4 教育の充実について

(1) 全体について

- ・ 幼稚園、保育園ともに、現場人材の確保とその勤務環境が厳しいと伺っています。恐らく、本コロナ禍による影響もあろうかと思いますが、子供たちや子育て世代を支援する先生方が、多様化複雑化する教育・保育ニーズにきめ細やかな対応を継続・維持していくためには、数としての人員確保もさることながら、職場として個々の先生方をサポートする体制改善や人材（カウンセラーやコンサルティング）が必要な気がします。

(2) No.43 からNo.47 『「人として備えたい力」の育成』について

- ・ 「忍耐力の育成」、「社会性の育成」の評価がCとなっています。これは、全国的な子どもの傾向であると考えられます。この傾向に歯止めをかける有効な手立てがなかなか見つからないのが現状です。課題改善には、家庭教育との共同が不可欠であり、社会教育の分野とも連携して取り組んでいく必要があると思います。
- ・ 去年の意見にもありますが、忍耐力、社会性の育成については、家庭でもなかなか難しいことではあります。学校においては、児童会・生徒会活動、ボランティア等社会参加活動、または部活動の中で、多様な価値観の人と密接に関わる経験を積極的にさせつつ、各校のリーダーシップ教育の中で、育成に注力して頂ければと思います。保護者と連携したプログラムなど、協力出来ることは支援していきたいと思っています。
- ・ 「支持的風土の醸成」という言葉をよく聞きますが、結局は学校が「学級作りや居場所作りができているのか」ということだと思われます。「教育の充実」にC評価があるということは「教員の資質」がダメだと言っているようなものであり、如何なものか。「人として備えたい力」は、家庭だけではなく教員資質にも繋がると思います。

(3) No.52 「教育支援の充実」について

- ・ 近年、特別支援教育の充実が叫ばれています。特別な支援を必要とする子どもの状況が大きく変わりつつある中、特別教育支援員や多人数学級講師の配置など、人的配慮をしていただき感謝しています。今後も、十分な支援体制を継続することができるよう、予算の確保をお願いしたいと思います。

- ・ 退職や病欠等での先生が不足しており、各校ともに特別支援員などが増員されていますが、多くの特別支援員が「どこまで関わっていいのか」「先生と子ども達の立ち位置をどう受けとめていいのか」と、迷っていたり、悩んでいると聞きます。月に数回、ミーティングや勉強会を開くことが望ましいと思います。

5 生涯学習の推進について

(1) 全体について

- ・ 多種多様な体育的、文化的な事業を展開していく中で、人口減少、高齢化、少子化の影響を受け、事業の休止や縮小をせざるを得ない状況があると思います。また、指導者不足も深刻な問題です。その中で、生涯学習分野の事業は、市民に豊かな生活を提供するための大切な取組だと思っています。人手不足等の課題を克服し、事業が継続できることを願っています。

(2) No.64「スポーツ環境の整備」について

- ・ スポーツ環境の整備として、インフラ整備・改修は積極的に推進しているものと思いますが、ソフト整備として、市内体育施設（小中学校のものを含め）や、コミュニティセンターの利用予約について、インターネット等を活用することで一元化は図れないものでしょうか。今後統廃合が行われる学校施設などから、試行・検討して頂けると、利用市民の利便性向上にもつながるかと思っています。